参考資料６

植生調査について

１．調査目的

利用調整による歩道周辺等における踏圧や国外外来種の種子の持込み等による植物相への負荷の軽減度合いを把握するために土壌硬度、植被率、国外外来種の植被率に着目した調査を平成19年度より継続している。

２．調査方法

踏圧など人の利用による影響が大きいと考えられる地点（V-1～V-3）および、比較的人の利用による影響が小さいと考えられる地点（V-4）において調査区を設定した（表３－１）。調査区の設定状況については、図３－１に模式図を示すとおりである。大きさ２ｍ×２ｍの調査区を「歩道を含む地点」、「歩道からの距離が３～５ｍの地点」、「歩道からの距離が６～８ｍの地点」の計３調査区を１セットとし、光環境が同程度の地点に３セットずつ設定している。

表３－１　植生調査地点設定場所

地点番号	V-1 (V-1a、V-1b)	V-2	V-3	V-4
場　　所	大台教会下	ナゴヤ谷	七ツ池	大和谷上
セット数	4	3	3	3
設定年度	H19設定	H19設定	H19設定	H20設定

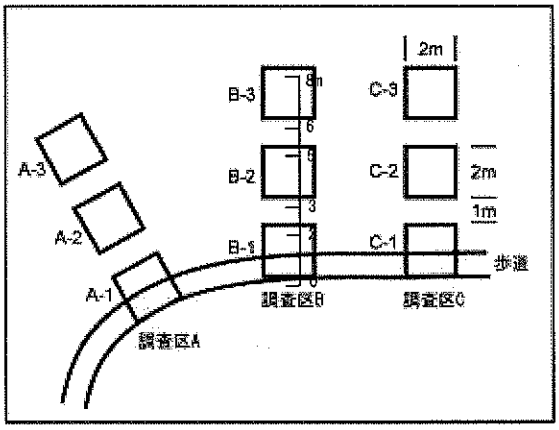

図３－１　植生調査における調査区の設置状況

各調査地点において、以下の調査を実施する。

① 詳細調査

各調査区内に出現する植物について、ブラウン - ブランケの手法に基づき、種名、被度（%）、群度を記録する。また、各調査区の土壌硬度について、山中式土壌硬度計を用い計測する。

調査は５年に１回夏季に実施する（平成25年度に実施予定であり、本年度は実施していない）。

② 定点写真撮影

植生の変化を視覚的に把握するために、定点写真撮影を実施する。

調査は毎年夏季に実施する。

３．調査結果

今年度は定点写真撮影のみを実施した。調査結果を表３－２に示した。また、各調査地点の概況を表３－３に示した。

表３－２　定点写真撮影調査結果

地点名	地点番号	調査結果
大台教会下	V1-A	特に変化は見られない。
	V1-B	
	V1-C	
	V1-D	
ナゴヤ谷	V2-A	歩道沿いのコヌカグサなど外来種の被度が減少し、全体的に蘚苔類の回復が見られた。
	V2-B	
	V2-C	全体的に蘚苔類の回復が見られた。
七ッ池	V3-A	特に変化は見られない。
	V3-B	
	V3-C	
大和谷上	V4-A	特に変化は見られない。
	V4-B	
	V4-C	

表３－３　各調査地点の概況（１）

年度	調査地点：V-1A　(大台教会下)	調査地点：V-1B　(大台教会下)
平成19年		
平成20年		
平成21年		
平成22年		
	特に変化は見られない。	特に変化は見られない。

表３－３　各調査地点の概況（２）

年度	調査地点：V-1C　（大台教会下）	調査地点：V-1D　（大台教会下）
平成19年		
平成20年		
平成21年		
平成22年		
	特に変化は見られない。	特に変化は見られない。

表３－３　各調査地点の概況（３）

年度	調査地点：V-2A（ナゴヤ谷）	調査地点：V-2B（ナゴヤ谷）
平成19年		
平成20年		
平成21年		
平成22年		
	歩道沿いのコヌカグサなど外来種の被度が減少し、全体的に蘚苔類の回復が見られた。	歩道沿いのコヌカグサなど外来種の被度が減少し、全体的に蘚苔類の回復が見られた。

表３－３　各調査地点の概況（４）

年度	調査地点：V-2C（ナゴヤ谷）	調査地点：V-3A（七ツ池）
平成19年	平成20年度より設置	
平成20年		
平成21年		
平成22年		
	全体的に蘚苔類の回復が見られた。	特に変化は見られない。

表３－３　各調査地点の概況（５）

年度	調査地点：V-3B（七ツ池）	調査地点：V-3C（七ツ池）
平成19年		平成20年度より設置
平成20年		
平成21年		
平成22年		
	特に変化は見られない。	特に変化は見られない。

表３－３　各調査地点の概況（６）

年度	調査地点：V-4A（大和谷上）	調査地点：V-4B（大和谷上）
平成19年	平成20年度より設置	平成20年度より設置
平成20年		
平成21年		
平成22年		
	特に変化は見られない。	特に変化は見られない。

表３－３　各調査地点の概況（７）

年度	調査地点：V-4C（大和谷上）
平成19年	平成20年度より設置
平成20年	
平成21年	
平成22年	
	特に変化は見られない。